

京都市基本計画審議会 第5回うるおい部会
摘 録

日 時：平成22年3月31日（水）14:00～17:10

場 所：ホテルオークラ 3階「曲水の間」

出席者：

あさり みすず
浅利 美鈴 京都大学環境保全センター助教

あほ ちあき
安保 千秋 弁護士

いしだ すてお
石田 捨雄 株式会社京都環境保全公社取締役会長

いたくら ゆたか
板倉 豊 西京区基本計画策定審議会議長，京都精華大学人文学部環境社会学科教授

◎ いぬい こう
乾 亨 立命館大学産業社会学部教授

えがしら せつこ
江頭 節子 弁護士

えんどう ゆり
遠藤 有理 公募委員

おぼた まさお
小幡 正雄 公募委員

おぼろ や ひさし
朧谷 壽 上京区基本計画策定委員会委員長，同志社女子大学名誉教授

○ かじた しんしょう
梶田 真章 本山獅子谷法然院貫主

しげやま せんざぶろう
茂山 千三郎 大蔵流狂言師

はまさき か な こ
濱崎 加奈子 伝統文化プロデュース連REN代表

以上12名

◎…部会長 ○…副部会長

(50音順，敬称略)

1 開会

2 議事

基本計画第1次案分野別方針の検討

乾部会長

本日の会議の目的は、分野別方針の部会案をまとめる、となっており、これまでに議論してきた分野の素案が出ている。本日議論した後、今後どうこれを進めるかという議論となるため、ここで言うべきことを語りつくしておかなければ逆戻りが難しくなる。もちろん必要があれば、逆戻りすることとなるが、その点を御了承いただきたい。

本日の部会の進め方について、詳しくは事務局から説明するが、じっくり話していただくために三つのテーブルを用意しており、取りまとめ役を除き、皆様に各テーブルを移動して議論いただく。各テーブルでそれぞれの分野の問題等を御議論いただきたい。

もう一点は、プログラムの中に「うるおい部会全体を貫く価値観についてのキーワード抽出」と記載している。それぞれのテーブルを回りながら各論を御議論いただく中で、様々なテーマをばらばらに切って議論するのではなく、うるおい部会としてこれからの市民生活を考えるときの大事なキーワードを導き出すことをお願いしたい。

なぜこれにこだわるかというと、今回の基本計画は、大きな理念を掲げたうえで、いくつかの未来像を議論している。その下に重点戦略がいくつか並んでおり、更にそれをブレイクダウンしたところに、本日議論する分野別方針がある。この分野別方針と全体をつないでいくもの、どんな哲学でこれからの京都を作っていくのかということ各論を議論しながら語っていただきたく、その時間を設けている。よろしくお願いします。

事務局から以下の資料を説明

- ・ 第5回うるおい部会・プログラム
- ・ 基本計画第1次案分野別方針の検討

(環境、人権・男女共同参画、青少年の成長と参加、市民生活、文化、スポーツ)

乾部会長

議論の際、これまでの議論に加え、皆様の思いを入れていただきたい。ひとつ気になった点として、政策指標は、これまであまり議論できていなかった。指標は、きちんと計画を実行できているかを測る物差しとなる。注意して議論いただきたい。

——— (テーブル毎に議論：議論の結果は別紙参照) ———

乾部会長

各テーブルの取りまとめ役から議論の結果を簡単に御報告いただきたい。

梶田副部会長

環境をテーマに議論した。時間が足りない中、表現について多くの修正意見が出されたが、どう直していくのか心配。環境自体をどう定義するのか、といったところからは

じまり、この部会で中心に取り上げるのは地球環境なのか、生活環境なのか、との議論までされた。出された意見を事務局でうまく生かしていただき、我々も考えたい。

安保委員

皆さんの議論を聞いて大変勉強になった。人権・男女共同参画、青少年の成長と参加、市民生活について議論したが、非常に範囲が広く、かつ生活に密着し、言葉にすることが難しいテーブルだった。人権・男女共同参画については、同和問題など、京都の歴史を認識したうえで、障害者、在日外国人など、社会の中で特に差別をされやすい方にどう対応するかが大切である。男女共同参画についても非常に生活に根付いており、それをどう指標で表すかが問題。この分野では、多様な存在を認める、生活に困窮する方を作らない「セーフティライン」を忘れてはならない。

青少年について、守られるだけの弱い存在ではなく、若者自身が力を持っている、という若者への期待を感じた。若者を社会がいかに育て、評価していくのか。そして一方で支援が必要な若者をいかに支えるかが大切である。

市民生活では、どのようにしてコミュニティの力を付けていくかについて、行政の役割だけでなく、私たち市民が何をやっていくのか、市民がどのように力を付けていくのかを、どう言葉に表していくかが大きな課題である。

濱崎委員

文化・スポーツについて、京都は文化都市と言われながら、自分たちの生活の中で身近に文化が認識されておらず、現実とかい離があるのではないか。そのためには、子どもに働き掛け、文化について子どもが理解し、親しみ、楽しんでもらうことが大切である。

「うるおい」とは「誰かのために何かをすること」、とまとめているが、エゴイストな子どもが増えている、と実感している。「誰かのために何かをすること」が日本人の根底、京都文化の根底にあり、コミュニティを考える上でも非常に大切である。このようなところについての価値観を転換することが、うるおい部会全体の価値観につながるのではないか。従って、政策目標についても、「みんなで目指す」のではなく、「みんなのために目指す」、とできればよいのでは。

「地域コミュニティの力を上げるべき」について、文化、スポーツを活発にすることで地域コミュニティの力が上がっていくのではないか。

また、京都にとって宗教文化は大きなものであり、各地域にあるお寺の役割を大きくする、例えば人が集うような拠点としても考えられ、京都の歴史の中で果たしてきた役割を担ってくれるような全体の仕組みができないか。

一方、文化もスポーツも場所が足りない、との具体的な意見も出た。指標について、子どもたちが大人になった時にどういう世の中であればいいのかという指標があればよいと思う。政策指標に必ず「子ども指標」を設けてはどうか。

さらに、数字だけでなく、言葉で掲げられないか。認識、理解などの心の部分が大切で、そこが表現できればと思う。

また、イメージしやすい漫画や絵などを入れる、言葉をかみ砕くなど、市民や子どもに分かりやすい計画としてはどうか。また、こういう京都になればいいなという明るい

イメージを皆さんに持ってもらえるものとすべきである。

梶田副部長

うるおい部会全体を貫く価値観について補足すると、「対話」とは、それぞれの違いを理解することであり、それが地域で行われることが大切である。

乾部会長

最終的な整理は、事務局と私に委ねていただきたいが、うるおい部会全体を貫く価値観の共有として、ある程度皆様の共通認識と言えるのでは、ということ挙げると、「つながりあう、支えあう、わかりあう」ことではないか。それが地域コミュニティなどとの関係の中で語られており、これらがベースになっていくことが必要である、と語られたかと思う。

また、以降は、順不同になるが、「受け継ぐ」あるいは「私たちは続いているものの中の一部」ということが語られていたかと思う。「暮らし方」、あるいは「伝統」、「価値観」など、私たちは宙に浮いているのではなく、それらの一部ではないか。

次に、「暮らし」、「コミュニティ」、「生き方」、「自然環境」、「文化」、「スポーツ」などがすべてつながっている。つながっているだけなら当たり前の話かもしれないが、ぐるぐる回りながら何かしらの効果を発揮している、相互に作用することへの期待がある、ということが語られたかと思う。

更に、「子どもに焦点を当てて考えよう」ということが語られた。「子どものために」、という考え方と、「子どもがリードする」、の二つの考え方があるが、10年後の青年たちを主人公にしながら考えていく必要がある。

また、「希望の物語を紡ぎだそう」と語られた。マイナスばかり語るのではなく、希望の物語を語ろうという意見があったかと思う。

次に、「私は環境の一部である」ということが語られていた。「私は社会の一部」とも言える。当たり前の話だが、「私は大切にされなければいけない」、と同時に、「私は周りを大切にしなければならない」。更に、「私自身が動かなければならない、働きかけなければならない」。社会の一部とはそういうことである。また、この基本として「生活できる社会」つまり、「暮らし続けられること」が大切である。

おそらく、「誰かのために何かをする」、「みんなのために何かをする」ことが考え方の基本にある。同じ話をしているかもしれないが、問われているのは、「私に何がしてもらえる」のではなく、「私はどうするのか」、「考え続ける、問い続ける10年」とすべきである。社会の一部であることと、語れば語るほど違いが見えてくる、多様さを認めあうことはセットで考えなければならない。

これらが、そのままうるおい部会のメッセージになるかどうかは別として、皆さんが語ったことを出すとこのようなことだったかと思う。

また、違う次元の話だが、「子どものための基本計画を作ろう」、という意見があった。子どもが分かる、子どもに伝えることは別途必要である。

これに加え、指標について、文化、スポーツ、あるいは人権などは、数だけの指標では不十分であり、質的な目標についても考えていくべきである。

以上が，本日语られた内容かと思う。また何かあれば，事務局にお伝えいただくか，ポストイトに書いておいていただきたい。特に取りまとめ役の方には，テーブル移動がなかったので，何かあればメッセージを残していただきたい。

本日の議論の最終的なまとめは，部会長にお任せいただくとして，私自身は，本日様々な御意見をいただき，豊かな議論ができたかと思う。

———（事務連絡）———

3 閉会

■テーマ 環境

意見の分類		素案の内容	委員意見
計画全体に関する意見			カタカナの表現をすべてやめてみては。 カタカナは極力、使わないといけないものだけ使うべき。 京都の良さを出す言葉を使うべき。 子どもでもわかる計画にすべき。 10歳の子が20歳になるときの計画ということを考えるべき。 子ども版も作成すべき、10年後をこうしようと伝える絵本。 10歳くらいの表現なら外国人も理解できるのでは。最初10ページや別冊でもよいし、子どもでもわかるようなページの作成を。 トップランナー、ライフスタイルなど(外来語)の表現が分かりにくい。
分野別方針記載項目に関する意見	キャッチフレーズ	DO YOU KYOTO?	行政はDO YOU KYOTO?を入れたいのか。入れるにしても注釈を入れるべきでは。 英語表現を使わないほうがよいのでは。
		環境と共生するまち・京都	環境と共生するまち・京都は違和感がある。 「環境」に「地球」を加え、「地球環境」とすれば「自然と共生」という言葉も合っているように感じる。
	基本方針	環境と共生するまち・京都	環境の定義がはっきりしない中では、環境と共生するまち・京都は違和感がある。 「他のいのちとくらしをきづかうまち・京都」ではどうか。 他の生物と共生する認識を入れる。
		環境に優しいライフスタイル	ライフスタイルは自然環境と完全に切り離せない。 自然環境だけで切り離して考えると大した話ではない。セットでライフスタイルを考える。
	現状・課題	環境モデル都市について	環境モデル都市・京都の言葉の位置付けを明確に。政策を進めればモデル的になるのか、モデル的な取組をやるのか。
		暮らし方について	現状・課題の3つ目、4つ目の内容が整理されていない。現在の市民の「くらし方」の状況や概念を入れて、より丁寧に編集する必要がある。
		追加すべき課題について	問題の捉え方をはっきりさせるべき(現状課題の3、4つ目いずれにも「ごみ」の問題点が記載されるなど混在している)。生活上の問題なのか、インフラの問題なのか、どういった問題があるのかについて、整理して表現する必要がある。 「環境」の定義がわからない。市民のくらしや生活空間のようなものも含まれるのか。自然以外の環境も含めるべきでは。 自然環境以外の環境(個人のくらし方や社会のシステム等)もきちんと入れるべき。 目先のことだけ考えないように。高い理想を持つような政策目標であるべき。すぐにでも実現可能なことばかりではもの足りない。 生活の利便性の追求と自然環境とのバランスをとる視点が必要。
		追加すべき課題について	人が生きるためには他の生き物も傷つけながら生きている。自然環境を大切にするのであれば、利便性の追求を我慢するなど、市民の覚悟も書き込まれるべき。 他の生物とは、他者も含めた概念ではないか。

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	みんなで目指す10年後の姿	追加すべき内容について	明るいイメージを出すのが必要。対立的な人にもこれからつくっていくんですよと訴えかける、呼びかけるような表現に。子どもにとっても暗い言葉は好ましくない。子どもが暗い将来イメージを持っているのは大人の責任。10年後を本気で考える大人がいることを子どもたちに伝えられるように。 華々しい、もっと明るいことを書くべき。今は地味。やってやるという気概のある表現を。 目指す姿を実現するために、ちょっと我慢する内容も盛りこむべき。 子どもたちに胸を張って言える表現をすべき。 自然を保全するには利便性が犠牲になることも。価値観の転換した表現に。 環境の価値観というものを打ち出すべき。
		三方を山に囲まれ～になっている。	子どもたちにとってきれいなことが当たり前になってしまう。昔を知る必要があるのでは。前はこうしてた、今はこうなっていると経過を知ることが大切。温故知新。素晴らしいものを当たり前にしてしまうものも恐い。
		人と自然の共生の中で	人と自然の共生は違和感がある。 人も自然の一部ではないか。人が自然と違う暮らしをしていると宣言していることになる。
		子どもたちが自然環境を身近でかけがえのないものと実感できるようになっている	子どもたちが10年後の姿をかけがえのないものと実感するから「知る」、「考える」という表現に。 鴨川のきれいさを教育する。教育が基本となる。 子どもに自然環境をはぐくんできた歴史を実感させることが大切。 見て体験する教育も含めて、子どもたちに対する教育に力を入れるという表現に。
		地産地消の食文化、～伝統的な知恵	町家ならわかるが、ビルになっても打ち水をやるのか。ビルの増加は逆行している。今の暮らしではみんなやらないと思う。
		車優先から公共交通優先へ	徒歩や自転車移動は含まれないのか。他の仕組みも含めて考える必要がある。
		環境にやさしい行動を進んで実践する市民や事業者が増えている	「当然のこととして行動する」としては。
		伝統的な知恵を生かした新しい「京都流ライフスタイル」	新しい京都流ライフスタイルとは何か。何が新しいのか。昔から行ってきたことであれば新しくないのでは。 京都流ライフスタイルとは何か。難しい言葉。伝統と新しいものをミックスさせるのであって、いきなり新しい概念がでてくるのはおかしい。

■テーマ 環境

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	みんなで目指す10年後の姿	伝統的な知恵を生かした新しい「京都流ライフスタイル」	「環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議」の提言を見て感動したが、一方で我々は省エネ家電などの環境ビジネスに乗せられている感じがする。本当の豊かさ、物をもたない意味、地球を思うこととはなにか、一步先に行く環境にやさしい考え方を。気付きの提言が必要。真夏に自動車クーラーにかかり、ジムで汗を流し、冷たいものを飲むなどおかしい行動をしている。本当に環境にやさしい行動への気付きがある。
			「知恵をいかしつつ、今の技術を活用する」ライフスタイル、としては。
		しまつの心を大切にし……	「少しの資源を活用して、高エネルギー、付加価値の高いものを創りだす」という表現がよいのでは。経済活動と矛盾するように見える。買わない・つくらないではなく、付加価値が高く、経済性が高い活動をする。「資源生産性が高い」(行政職員からの意見)は少し分かりにくい。
	政策指標	追加すべき指標について	数値よりも言葉がよい。
			一般の人は数値ではわからない。
			子どもたちに関係する指標を入れるのはどうか、と別テーブルで議論していた。
			子どもが成人になっているときにどういう状態になっているか。スポーツのテーブルでは10年後どういう体力になっているかといった指標を議論した。
			「公共交通の利用率」がいい指標になると思う。
			自然の中で暮らしていることを測るような指標は設定できないか。今は指標2つだけだが、山と人とかかわりや自然の中での知恵の付け方などの視点を。
			「山とか川とかのきれい度」も指標にできないか。生物調査の結果や環境汚染度など。
	政策指標	追加すべき指標について	「リサイクル率」の指標はどうか。
			数値指標よりわかりやすい指標として、例えば「すべての川にホタルがいる」、「すべての川にアユがいる」といった、子どもにでもわかるような指標も考えられる。
			例示された「すべての川にホタルがいる」といった指標は、逆に市民にとっての実感がないので分かりにくい面もあるのでは。
		追加すべき指標について	コミュニティや市民はどうしたらよいのか。市民目線の温室効果ガス削減率を記載する必要。市民は何割削減すべきとか。市民が具体的に取組むべきことを書くべき。政策では市民が取り組むべき具体的な数値を入れていただきたい。あなたは市民としてこうですよというのをに入れていただく。個人として分かる範囲にしよう。
			量よりも質を高めることが重要。本当に環境にやさしいことを意識する市民が増えているという指標を。
			温室効果ガス削減率に今の指標ではあらゆる分野が含まれる。包括的なのは分かるが、市民の実感が湧かない。市民生活実感がある指標を。

■テーマ 環境

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	政策指標		「ゴミ袋を1人あたりいくつ出す」というような分かりやすい表現を。
			ごみの分け方が微妙なものがある。ごみをだすのはリサイクル可能なごみだけにしましょうと訴えられるような表現, ゼロエミッションという表現があれば理想。
			どのくらい活用がすすんでいるのか。「再生可能エネルギー資源の目標値」を入れるべき。
	市民と行政の役割分担と共汗	市民の役割	市民はきっちりとごみを分別すること。
			コミュニティの中で分別を進めることが大切。
			「コミュニティ」は重要な概念。
			自治会が主体となってゴミを分別を推進してはどうか。
			コミュニティを再生する。
			みんながやるからやらざるをえなくなる。
		行政の役割 (共汗の方向性)	京都市と府の役割分担, 行政同士の連携が必要。河川管理など管轄が別でややこしい。「市」と「国」や「府」の連携を。
			行政はうながすような仕組みづくりとごみの活用を行うこと。
			地域でやることが見え, 実感できるようにする。体育振興会みたいなシステムを各町内ごとに作れないか。
			あらかじめ細かく分別回収する仕組みをつくれればよいのでは。分別回収して更に回収する今の分別方法は二度手間では。
			行政が仕掛けをするべき。水俣ではコミュニティでごみの交換会をしている。行政が長いことかかって仕組みを作った。説明会を開くなど, 市民が動くように努力した。活動費がバックペイされるなど, 実益もあるので市民も動くようなシステム。子どもも老人も楽しそうにやっている。
		行政の役割	行政も知っていると思うが, 京都の人口規模では水俣と同じ取組は難しいかもしれない。
			まち美化の組織率では同じような規模ではないか。京都でもできないことではないと感じる。
		観光客の役割	水俣では世界中から活動を見に来ている。観光資源になっている。京都でも寺社だけでなくエコツーリズムを観光資源にできるのでは。
			「事業者」と「観光地」, 「観光事業者」など観光そのものの視点を入れては。
			NPO法人の役割
		学生, 大学の役割	「大学」や「学生」の視点を入れては。

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	基本方針	追加すべき内容について	経済、教育の問題。弱い人を作らない政策を。
	現状・課題	追加すべき課題について	現状・課題に外国人の話が書かれていない。 グローバル化の中での位置付けを見ておく必要がある。グローバルで見れば人権はまだまだ。京都は国際都市と言いながらそこがあまり入っていない。 人種差別用語を連呼する街頭デモを、警察の許可を得てやっている。穏やかな対応だけでは足りず、戦う姿勢も大切。 生活弱者についてはきちんと入れておかなければ、精神論で済ませてはいけない。 同和問題があることは事実だが、京都はそれにきちんと取り組んできたまち。それを俎上に載せ、課題は残り続けているということは言わなければならない。 現状・課題でワークライフバランスの問題として、女性への家事や介護の負担の集中なども挙げておく必要がある。
		目指す姿について	互いに尊重し、支える前に、まず知り合わなければならない。互いに知ることが大切。 差別の存在を知らなかった人に教えることが正しいのかと感じる。まず、私という人間がいるはずで、障害者という人はいない。性別も同様。たまたまその人の個性としてあるもの。特別に持ってくる必要はないのではないかな。 弱者を出さないという視点から障害者のことを考えることが大切。
			女性委員の登用率 達成審議会の増加
			追加すべき指標について
			政策指標
	市民と行政の役割分担と共汗	共汗の方向性について	専門家にうまくアクセスする仕組みが必要。
		市民の役割について	差別の問題は難しい面があるが、市民自らが学び、考え続け、判断力をつけていくことが大切。 市民は、互いに知り合い、支えあう、理解しあうことが大切。これはすべての分野に通じる。
		行政の役割について	ある程度行政が音頭を取ってくれないと難しい。 人権男女の分野では機会平等を徹底することを行政の役割としてほしい。 弱い者を支えるという、当たり前の話が行政の役割。 行政の役割として、多様な市民が触れ合う機会、交流する機会をどれだけ確保するかが大切。
		事業者の役割について	事業者の役割として、障害者や女性の社会進出等への支援があればよい。京都からモデルの発信を。
		市民団体・事業者等の役割について	専門的知識をアドバイスする専門家が必要。 宗教者も専門家ではないか。
		市民と行政の役割分担と共汗	女性委員の登用率 達成審議会の増加
			追加すべき指標について
			政策指標
			共汗の方向性について
			市民の役割について

第5回うおい部会における意見の分類

■テーマ 青少年の成長と参加

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	全般	追加すべき視点について	青少年が守られるべき対象という印象を受ける。若者には試練も大切。チャレンジするべきことにチャレンジする姿が大切。全体的にその視点を加えてほしい。
	基本方針	追加すべき内容について	青少年自らが考える力の育成が必要。 言われたことをすべて受け入れ、そこでとどまる子どもとしてはならない。考える力をつけることが大切。
	現状・課題	追加すべき課題について	「問題点」に焦点が当てられている。「青少年がチャレンジできる環境にない」などを冒頭に持ってきて、その後、個別の問題を書いてはどうか。それがバランスのとれた成長と機会を与えていくことにつながるよう書いてほしい。 環境や道徳をきちんと学ばない社会であることが問題。
	みんなで目指す10年後の姿	追加すべき内容について	機会平等が大切。青少年は勉学、就職など、「何でもできるという機会を与える」、「何でも挑戦できる場所がある」、などの表現が目指す姿にあってもよいのではないか。勉強は苦手でも体育なら輝けるなど、能力に合わせたもの(活躍の場)が大切。
			学生が時代祭など、京都の伝統に参加することが大切。京都に住みたいという気持ち、若い力を生かすことにつながる。
			現状を受け入れるという受動的なものだけでなく、若者自らが切り開くことを挙げてもよいのではないか。
			古いものに関わろうとする人たちも今しか知らず、昔を知らない。きちんとこれまでの経過を教える、引き継ぐことが大切。
			市で決めている条例を知らないことが多い。きちんと決めたルールをみんなが認識できる形で家庭学習の本を渡し学校でテストするなど、教育の中で対象年齢ごとに周知する場、機会を。
			「伝えるべきもの、知恵を伝えられながら」、というところを追加しては。
			バランス良い成長を支えることが大切。子どもにとっては本来与えられるべきものの代わりに、大人が都合のよいものを与えられ、バランスを欠いている。人として生きていく力をつけることを、家庭だけでなく、いかに社会が支えるかが大切。
			若い人と接する中で感じることで、自分のために何かしようとしていることがあまりにも多い。それがバランスを崩し、居心地を悪くしている。人のために何かをする、みんなで目指すのではなくみんなのために目指す、という共感が必要。
	政策指標	追加すべき指標について	2と3は、似た指標。 勉強などで忙しければ審議会やサポーターになる人は少ない。3つの指標がすべてボランティアに関するもの。違う切り口の指標があってもよい。 青少年の就職率、ニート率などを指標にすべきでは。 数で測るのをやめてほしい。青少年活動センターの活動内容をモノサシにしてはどうか。青少年活動センターの目的をはっきりとさせ、そのために何をしたか、どれだけの実績を上げたかを指標に挙げてはどうか。質的な目標を作り、質的な評価をすることに変わらなければならない。 誰が見ても客観的という意味では数字しかない。

第5回うるおい部会における意見の分類

■テーマ 青少年の成長と参加

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	政策指標	追加すべき指標について	センター利用者を10万人とする, などのほうがよいのではないかな。 青少年活動センターは魅力的だが, ボランティアの数ではなく, センターに来た人のほうがよいのではないかな。青少年だけでなく, PTAや親父の会, 子ども会など地域の中での居場所づくりの指標との両輪が必要。
		青少年活動センターで活躍するボランティア数	ボランティアに参加している子などが分かる指標が取れないかな。 数字を把握することが可能なものということで青少年活動センターのボランティアなのでは。 高校生にアンケートを取って, どれだけボランティアに興味があるかが分かればよいが, 難しいかな。どれだけボランティアの項目が広がったのかという, 質的な調査をしてはどうか。
	市民と行政の役割分担と共汗	青少年の役割	学生が時代祭などの京都の伝統に参加することが大切。京都に住みたいという気持ち, 若い力を生かすことにつながる。 自らが考えることが必要。甘やかさないことも大切。 人のために何かをする, みんなで目指すのではなくみんなのために目指す, という共感が必要。
		行政の役割	希望に応じ, ボランティアに参加してくれた人が履歴書にかけるなどの証明書が出せないかな。 市で決めている条例を知らないことが多い。きちんと決めたルールをみんなが認識できる形で家庭学習の本を渡し学校でテストするなど, 教育の中で対象年齢ごとに周知する場, 機会を。
		共汗の方向性	大人が範を示すことが必要。若い子は素直だが, 大人が割と問題。 市民全体が範を示すことが必要。
		青少年支援団体等, 学校等の役割	青少年に対して役割を担ってもらうには, 社会から役割を与えなければならない。そして, 青少年が参加した時に評価し, 社会に還元しなければならない。役割を担ってもらうことを強調するのであれば, 評価が必要。 現代の環境にうまく合わせながらチャレンジ精神を与えることが大切。 人として生きていく力をつけることを, いかに社会が支えるかが大切。 機会は平等に与えられ, 個性が生きていく社会の仕組みが大切。若者が社会できちんと役割を果たすことを理解すること, 役割を果たすための機会があることが大切。 専門家の役割は二つ。教育指導と寄り添うこと。

■テーマ 市民生活

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	全般	追加すべき視点について	コミュニティの次に、犯罪、消費者が書かれているが、市民生活はそれだけなのか。現状・課題も犯罪、消費者の話が多い。子どもの見守りや身近な環境を大切にするなど、日々の暮らしのいろいろな話があるはず。これだといかにも警察と市と国から守ってもらうというストーリーしか見えてこない。市民側から見れば行政にしてほしい話だが、自分たちでできる話ではなく、市民側が伸ばす話がない。
	キャッチフレーズ	誰もが安心してくらせるまち	誰もが安心して暮らせるのは当たり前。「地域が支える、ありがとうと言えるまち」のほうがよいかもしれない。
	基本方針	追加すべき内容について	地域コミュニティが大切。コミュニティの中で潤いある生活ができるという点では、コミュニティ力を上げていかなければならない。
	現状・課題	追加すべき課題について	市民として生活する中で、根拠のない不安感を持っている人が多い。凶悪犯罪の件数は減っていて安心になっているはずなのに子どもを一人で遊ばせるのは心配。知らない人に声をかけられたら逃げるとなっている。自由にのびのびと暮らせる10年後、不安を取り除くものがあれば、親としては安心する。マイナスの情報ばかりを受けていることが原因かもしれない。
	みんなで目指す10年後の姿	追加すべき内容について	見守りをしている人でも挨拶をしない。みんながあいさつができていとよい。 互いに知り合うためには挨拶が大切。「京都市民はすべての人にあいさつする」まちであってほしい。
	政策指標	追加すべき指標について	どれだけ市民が元気かという指標があればよい。 自治会加入率が書かれているが、小さなグループが活動できる場所がどれくらいできたか(町の縁側など)も大切ではないか。
		刑法犯認知件数	重い犯罪が減ると軽い犯罪にシフトする。認知件数は警察の頑張り次第であり、指標にふさわしくないのではないかと。 犯罪認知件数について、否定的な事項の減少に関する指標があまりないので、これは良いのでは。
		高齢者の消費生活相談件数	相談が増加することで、啓発や安心の効果もある。減少を目指すことがよいことではない。
		市民の役割	市民は、自助努力、自らのことは自らがすることが大切。
	市民と行政の役割分担と共汗	行政の役割	ごみ拾いをしている地域などを感謝や称賛することでポジティブな発信を。 行政はわかりやすい情報提供と、土日の証明書発行など市民に身近なサービスの拡充を。 行政は場を提供することが大切。 専門家とつなぐ役割の人が必要。
		学校の役割	地域のコアとしての学校の役割は大きい。知らない人同士でも子どもが同じ学校なら会話するし、学校で子どもたちとお年寄りが触れ合う機会もある。 青少年と高齢者のコミュニケーションの場として学校を活用しては。
		専門家の役割	事業者ではないが、弁護士会も消費生活、人権などに取り組んでいる。専門家という形で入れてほしい。 安全のための知識がないと、どこが危険かわからない。市民意識を向上させるための専門家の役割が大切。

第5回うるおい部会における意見の分類

■テーマ 文化

意見の分類		素案の内容	委員意見
計画全体に関する意見			第一の項目に、子どもの為にすることを掲げてはどうか。うるおい部会が、子どものために作ったということが見えてくる。子どもに向けた取組の記述が分散している印象がある。
			「誰かのために何かをする」ことが日本人の根底、京都文化の根底にあり、コミュニティを考えるうえでも非常に大切である。
			「子どものための基本計画書」みたいなものを作ってはどうか。分厚くなく、見てみようと思わせる、見た目に明るいイメージで未来の姿を現したものの。言葉も分かりやすく。
			子ども向けの計画書は、マンガなどビジュアルで、わかりやすいものを。ただし、格調は高く。行政以外がつくるべき。
			「共汗」より「共感」の方が望ましい。
分野別方針記載項目に関する意見	キャッチフレーズ	世界的な文化芸術都市として創生することを目指す	「創生」というよりも、「心を感じる」ということではないか。
			「世界的な文化芸術」はもう既にあるため、創生ではなく、持続する、生き続けるということ。深く認識することではないか。
			「世界的な文化芸術都市として創生すること」について、市民として、どのように取り組むか、という観点が必要である。
	現状・課題	追加すべき課題について	市民レベルで認識されているかが問題。子どもたちが認識しているか。いかに浸透させるかが大きな問題。
			身近に文化財があるが認識していない。親は認識していない。
			外から来た人はできるだけ京都を見ようとするが、最初からいる人は、なかなか文化を見ない。
			武道など、礼儀を教える分野の指導者がいない。
			和の文化についての認識を現状認識の所で強調して入れておいてはどうか。
	みんなで目指す10年後の姿	和の文化	和の文化だけでなく、在日コリアンや進取の気風などの国際的な土壌もあるので、その視点も入れるべき。
			伝統産業など、ものづくりの文化も漏らさないほうがよいと考える。
			国際文化もあるが、やはり京都は和の文化。世界的な文化芸術都市であるということは、世界の人々が和の文化を見に来ること。
		追加すべき内容について	市民レベルで認識されているかが問題。子どもたちが認識しているか。いかに浸透させるかが大きな問題。
			子どもたちを連れて行って自然や文化財などを見せることが必要。
			子どもパスポートで、重要な文化遺産や博物館など、行けるところを増やす。
			身近に文化財があるが認識していない。親は認識していない。
			外から来た人はできるだけ京都を見ようとするが、最初からいる人は、なかなか文化を見ない。
			京都市民がどのような歴史的意味があるところに住んでいるのかを知ることが大切。

第5回うるおい部会における意見の分類

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見			お寺がたくさんあるのが京都。コミュニティや子育ての問題でも用いるべき。本来の寺院の姿をもう一度考え直すべき。尊敬できる僧侶のいる寺院を。
	みんなで目指す10年後の姿	追加すべき内容について	食文化は、ハードだけでなく、食べ方という生活文化も含むのではないかな。
			食文化という観点で、京都の伝統野菜などを守っていく必要がある。
	政策指標	芸術文化を「鑑賞」する市民の割合	芸術文化の鑑賞、の中に何が入っているのかがよくわからない。舞台鑑賞ばかりではなく、量よりも質という観点をに入れて、価値観を転換させる必要がある。
		市指定・登録文化財の数	登録文化財を増やすだけでなく、京都ならではの視点(となりのおばさんの家が文化財的だった!)などの指標を考えてもよいのでは。
			文化財の数が550件として、何がよくなるのか。これによって目標を達成させるということではない。環境整備をやって初めて目標を達成できるのではないかな。むしろ、文化財の認知度だ。
			文化財の認知度や登録文化財を残すことが問題。文化財として指定されれば、扱いにくくなるので、助成金などを与えるなど、支援が必要。
			後々の子孫のことを考えると、文化財登録を増やすことも重要だと思う。
		文化施設の年間入場者数	文化施設の年間入場者数は、市民入場者数とすべきでは。文化施設を市民デーとして開放してもよいかなと思う。市民に理解してもらうことにつながる。
	政策指標	追加すべき指標について	ジュニア京都検定の指標などはどうかな。平均点が上がる等。
			京都検定は暗記。理解しているとは思わない。
			京都検定では、指標にはならないのでは。
			指標は10年後にしては微妙。別の数字、切り口としたほうがよいのでは。
	市民と行政の役割分担と共汗	共汗の方向性について	「役割分担」というイメージで分けないほうがよいのではないかな。各主体が連携して取り組むイメージがある。
		行政の役割について	市が文化やイベント等に関するホームページやメルマガを作成し、興味内容によって、関連する行事を登録していた人に発信するようなサイトを作成してはどうか。もしくは、行政が音頭をとっていただいて、まとめていただくということもよいかも。まずは、市民しんぶんに掲載されているレベルなどを参考に行政からの情報と統一すべき。
			文化に関する情報を発信するたくさんのサイトがあるが、民間レベルでできているので、まとめられない。行政でまとめていただければ。

第5回うるおい部会における意見の分類

意見の分類		素案の内容	委員意見
			今ある登録文化財だけでなく、どれぐらい価値があるかは置いておいて、アーカイブ化しておく必要がある。行政だけでなく、幅広く京都が持っている財産を記録する仕組みが必要である。 マンガミュージアムと同様、産業的遺産や移動できる文化財などを一堂に集めておくような仕組みや、古いものを残しておくという考えを市民に根付かせることも必要である。
分野別方針記載項目に関する意見	市民と行政の役割分担と共汗	市民の役割について	京都市民がどのような歴史的意味があるところに住んでいるのかを知ることが大切。
		NPOの役割について	ホームページでは、行政ではなく、NPOなどの団体を作って発信するほうがよいのではないかな。
		学者の役割について	行政ではなく、京都に住む人々、とりわけ学者の方に京都にいかにかにすばらしく多様かつ多彩な人が住んでいるかということをリスト化した「平成人物誌」なるものを編集し、出版するなど、皆に分かるようにする。京都の特性から文化に携わる方々が多いので、文化を身近に感じる手助けにもなるうえ、国際的にも発信することで、市民にとっても自信になる。
			学者は価値判断をする役割がある。
			例えば、子どもに身近な発見をさせながら、歴史読本を作成させてもよい。
		ボランティアの役割について	文化を理解する人、楽器などの演奏方法を伝える役割を持つ人々（ボランティア等）を市民の中にも増やしていく必要がある。
		学校の役割について	伝統文化は難しいものと感じるのではなく、自らが面白いものとして捉えることで、子どもたちにも楽しく身近なものとして伝えることが必要である。

■テーマ スポーツ

意見の分類		素案の内容	委員意見
計画全体に関する御意見			他のテーブルで、カタカナ、英語はやめよう、という意見が出ていた。
分野別方針記載項目に関する意見	全般		「スポーツ」という言葉よりも「運動」「健康」という言葉の方がよいのでは。
	現状・課題	追加すべき課題について	後継者育成の問題がある。コミュニティとして体育協会、体育振興会など組織はしっかりしている。次にどうつなげるかを、今、しっかりと考えていく必要がある。 体育振興会では、もれなく沢山の仕事が付いてくるので、ハードルが高いように感じる。重荷になる可能性がある。 スポンサーがなく、練習するところがない、少ないという現状があるので、アスリートだけでなく、障害者の人々の活動の場も必要である。京都には高野、西京しかない。
	みんなで目指す10年後の姿	目指す姿について	夜間、女性一人でウォーキングしにくいという話があるので、一緒にウォーキングできれば。いろいろなライフスタイルで。
			学校が統廃合されているので、近隣施設でスポーツが楽しめるようにしなければならない。
			民間のスポーツクラブも障害者に開放するということも必要ではないか。
	政策指標	追加すべき指標について	指標が数字でなければならないのか。指標ではなく、目標であるべき。学校であれば、全員が逆上がりができる、など。
			金メダル取得を目標に掲げるべき。
			ウォーキング、山登りなどもスポーツ又は運動に入るのではないのか。そういう市民の活動も計測できる指標を設定しては。何らかの運動をしている人の割合も入れればよいのではないのか。
			体育振興会は最近停滞している。例えば体育振興会への市民の参加割合など。これは、うるおい部会全体の価値観にも関わってくる可能性がある。
			子どもの体力などを指標の一つに挙げてもよいのではないのか。
			人口減少により利用件数は下がっていくだろう。
	スポーツ施設(地域体育館)の利用件		現在の利用件数が満杯であれば、これ以上利用件数を増やすことが必要かどうか。市民がもっと施設を欲しているか、満足しているかということ測る指標が必要ではないか。
	プロスポーツ・全国規模大会の開催日数(延べ日数)		スポーツ大会を増やすと、市民生活へ影響を与える回数も増えるので、スポーツ大会への参加者数を増やす、という指標にすればどうか。
			プロスポーツの開催日数は、キャパ的に受け入れ可能なのに、受け入れられていない、ということであれば、他所でやっているのを持ってくるということになるが、それでいいのか、という問題がある。
	市民と行政の役割分担と共汗	行政の役割について	スポーツには、何か目標が必要である。京都のシティーフーフマラソンはなくなったのでは。行政的に、発表の場を設けてあげることが必要では。
			市民の参加が促すことができる何か、を行政が作る必要がある。
			体育館などを開放するなど、自由に体を動かせるような場ができないか。
			学校が統廃合されているので、近隣施設でスポーツが楽しめるようにしなければならない。

第5回うるおい部会における意見の分類

意見の分類		素案の内容	委員意見
分野別方針記載項目に関する意見	市民と行政の役割分担と共汗	コミュニティの役割について	後継者育成の問題がある。コミュニティとして体育協会、体育振興会など組織はしっかりしている。次にどうつなげるかを、今、しっかりと考えていく必要がある。
		体育振興会の役割について	体育振興会が取り組む内容が昔は決まっていたが、高齢化や多様化により、参加する種目(例:グラウンドゴルフ)も増えるなど、取り組むべき内容も多様化してきた。多様な種目に対応できる人を体育振興会に含めていくなど、工夫も必要。
		事業者の役割について	民間のスポーツクラブも障害者に開放するということも必要ではないか。
		指導者の役割について	大学の先生など、スポーツや体育の指導者は必要ではないか。